



池田宇一教授

信大大学院に2004年4月設置された大塚製薬の寄附講座「循環器病再生医学講座」が3月末、3年間の設置年限を終え、閉講した。同講座教授を併任した池田宇一・臓器発制御医学講座教授は、05年9月に初めて施行した自己骨髄細胞移植による心臓の血管再生療法の成功に大きく寄与したと成果を話し、今

信大「循環器再生」寄附講座が閉講

心臓血管再生の成功 血管炎への応用研究 に成果

後も循環器領域の再生治療法開発で、大塚製薬と共同研究を進めるとしている。

同講座は、信大で初め

後、循環器領域の再生治療法開発と「血管再生の心疾患への応用において、基礎研究を臨床応用につなげ

で、安全性、有効性が確認できた。寄附講座の非常に大きな成果」と話す。さらに、自己骨髄細胞移植による血管再生療法

ての寄附講座として開設。大塚製薬からは年額2000万円の奨学寄附金を受け、助手も大塚製薬から着任した。研究テーマは「循環器病の病態

として機能してきた。信大は05年に国内3例目の心臓血管再生療法に初成功し、このほど2例目にも成功。池田教授は「2件の心臓血管再生療法の成功

を強皮症、ベーチエット病などの膠原病性血管炎に应用するための研究進展にも寄与。池田教授が主任研究者を務めた04年度から3カ年の厚生労働

科学研究「難治性血管炎に対する血管再生療法の多施設共同研究」では、複数施設で14例の実績を挙げ、今年度からさらに3年の研究期間延長が認められた。池田教授は「10年来の潰瘍が完全に消えるなど、すばらしい成果が出ている。膠原病性血管炎をターゲットにした血管再生療法を行っているのは世界中で我々だけ。今後、積極的な学会発表による啓発で症例を増やし、長期的な安全性を確認していきたい」と意気込んでいる。